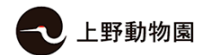


地球のことは、私のこと。
未来のことは、今のこと。



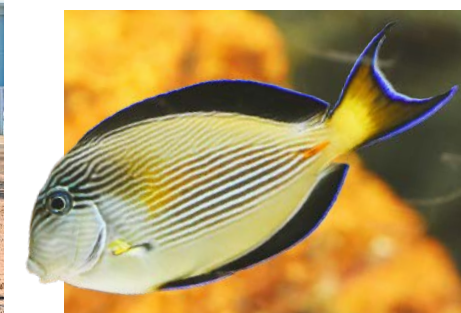
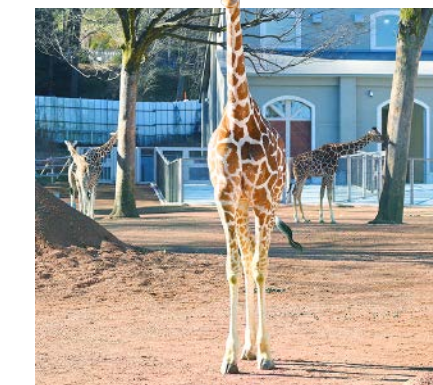
TOKYO ZOOLOGICAL PARK SOCIETY

2024 Plan Overview

公益財団法人
東京動物園協会

令和6年度 事業概要

Ueno Zoological Gardens
Tama Zoological Park
Tokyo Sea Life Park
Inokashira Park Zoo



公益財団法人
東京動物園協会
TOKYO ZOOLOGICAL PARK SOCIETY

公益財団法人
東京動物園協会HP



東京ズーネットHP
(都立動物園水族館公式サイト)



2024年5月

東京から、 人と動物の 「未来」のために。

開発や乱獲、地球温暖化による気候変動などにより、
地球上の数多くの動物たちが絶滅の危機に瀕しています。

そんな動物たちを守ろうとする取組みが、
動物園や水族園で行われていることを、
ご存知でしょうか？

今、動物園や水族園は、
希少野生生物の保護繁殖やその生息地の保全活動、
調査研究を行う場としても、大きな役割を担っています。

私たち東京動物園協会は、
都立動物園や水族園が培ってきた
調査研究や保全・保護に関する知識や経験を活かして、
人と動物の共存に貢献していきます。



TOKYO
ZOOLOGICAL
PARK
SOCIETY





私たちの使命

- Our Mission -

1. 動物園及び水族園事業の発展振興を図ること
2. 動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献すること

運営方針

東京動物園協会では私たちの使命に基づいた、3つの基本方針を掲げています。
その3つの基本方針を達成するため、4つの視点に基づいた具体的な取組みを推進していきます。

3つの基本方針 Basic policies

Basic policy: 001

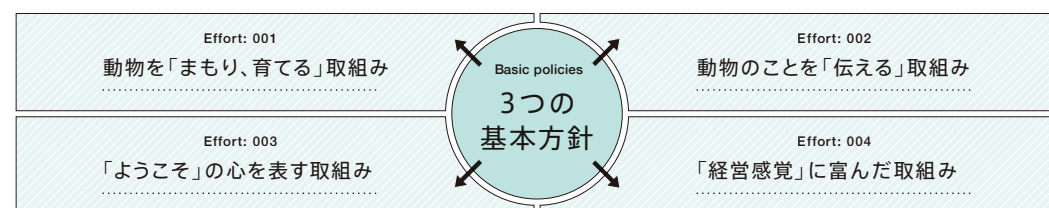
展示の工夫と快適な観覧環境の提供による、
楽しみながら学べる動物園・水族園の実現

Basic policy: 002

国内外の動物園や研究機関との協力による、
野生生物の保全への貢献

Basic policy: 003

公益法人の制度的特性を活かした、
公益性と経営感覚をあわせ持った施設運営



4つの取組み Our efforts

Effort: 001 **動物を「まもり、育てる」取組み**

希少種を中心に飼育動物の繁殖に力を入れ、国が推進する保全活動にも積極的に協力することで、動物園外にも保全活動を広げ、生物多様性の保全に貢献していきます。

Effort: 003 **「ようこそ」の心を表す取組み**

「安心、安全、快適」が最も重要な来園者へのサービスと考え、より良い施設管理を実現します。園内のサイン、解説パネル、休憩施設などの整備を進め、積極的に来園者とのコミュニケーションを図り、親しみやすい雰囲気づくりを心がけます。

Effort: 002 **動物のことを「伝える」取組み**

来園者が野生生物本来の魅力を実感できる展示を実現します。また、来園するたびに新しい発見がある、新鮮な動物園をめざします。教育普及や飼育展示に携わる園内スタッフが来園者の発見をサポートし、誰もが動物のことを学べる場を提供します。

Effort: 004 **「経営感覚」に富んだ取組み**

活気あふれる動物園をめざし、様々な工夫を行っています。基金事業をはじめとする都民や民間企業との協働による企画などを積極的に推進します。

東京動物園協会の事業

3つの基本方針、4つの取組みに基づいて行われる東京動物園協会の事業は、「公益目的事業」と「収益事業」に区分され、さらに「公益目的事業」には「指定管理事業（都立動物園・水族園の管理運営事業）」と「固有事業（協会が独自に運営する事業）」が存在します。
なお、収益事業で得た利益は固有事業の運営資金として活用されています。

公益目的事業

指定管理事業 詳細はP04

恩賜上野動物園・多摩動物公園
葛西臨海水族園・井の頭自然文化園
上記4園の管理運営を行う事業

動物の飼育・展示

動物の健康に配慮した飼育管理と、動物の特性を引き出す展示をめざします。

野生生物の保全

野生生物の保全に取組むとともに、生物多様性の重要性を発信しています。

教育普及

動物やその生息環境について楽しく学べる機会を提供します。

利用者サービス

サービス向上の取組みと、イベントの展開や広告宣伝による利用促進を行います。

安全・安心の確保

安全で快適な施設の維持管理に加え、災害に対する危機管理を行います。

固有事業 詳細はP12

動物園事業の発展振興と動物愛護思想の普及を
目的に財団として独自に行う事業

東京動物園友の会の運営

動物園・水族園における教育普及事業として観察会・見学会・講演会などの開催や普及誌の発行を行っています。

出版物の発行

雑誌「どうぶつと動物園」などの発行を通じて動物や動物園・水族館に関する情報を発信しています。

図書資料の収集・公開と 映像記録資料の制作

動物や動物園に関する図書資料の収集・公開と動物園事業の記録のため写真や動画の撮影を行い、活用しています。

基金事業の運営

域内保全活動を主に支援する「野生生物保全基金」など、民間協働による基金活動を行います。

収益事業の利益を「固有事業」の
運営資金として繰入れ

収益事業 詳細はP14

固有事業を継続的に実施するため、ギフトショップ・レストランなどの運営を行う事業

ギフトショップの運営

園内のギフトショップの運営やオリジナル商品の開発を行います。

レストラン・フードショップの運営

園内のレストラン・フードショップの運営やメニューの開発を行います。

その他のサービス

ベビーカーの貸出しなどの来園者サービスを行うほか、オリジナルグッズの通信販売を行います。

動物の飼育・展示

都立動物園・水族園では、昆虫類などの無脊椎動物から哺乳動物まで、多岐にわたる分類群の生物を、4園が連携し、技術協力を図りつつ飼育展示をしています。動物が健康に生活し、繁殖活動ができるよう適切に飼育・管理し、動物の特性を引き出す展示の工夫も行っています。

1 飼育展示・調査研究

動物の健康状態を良好に保ち、繁殖にも積極的に取組むとともに、環境エンリッチメントの取組みなど、種に応じ、動物福祉にも配慮した飼育環境を整えています。



Case

ジャイアントパンダ双子成育中

都立動物園・水族園では多様な希少野生動物の飼育・展示に取組み、蓄積した技術を活用しながら、繁殖に貢献しています。恩賜上野動物園では昭和47年にジャイアントパンダが初来日して以来、国内外の協力のもと、1980年代には人工授精による出産、平成29年には自然交配による繁殖に初めて成功しました。令和3年には初めて双子が誕生し、順調に成育しています。



Case

群れ展示を目指す「アジアゾウのすむ谷」

多摩動物公園の「アジアゾウのすむ谷」は総面積4200㎡の広大な敷地に、野生と同様にメスと子は群れで、オスは単独で暮らせるようになっています。運動場には複数の給餌装置があり、ゾウが自由に餌を探しながら移動する姿を見ることができます。またトレーニングにより、健康管理を行うとともに、室内に砂を敷く事で、足への負担を軽減し、砂浴びなどゾウ本来の行動を促すなど、動物福祉に配慮した飼育管理を行っています。

2 展示動物の収集・管理

展示計画策定や展示動物の収集とともに、動物園間の動物の交換・貸借の調整や飼料調達、血統や動物台帳への登録・管理などの事務手続きも行います。



Case

海外からの動物導入

動物園では、できる限り野生生物の遺伝的多様性を保つようなペアリングに努めています。特に希少種は飼育数が少なく、国内の動物園を1つのグループとして、園館間で個体移動を行い、時には海外から新しい血統を導入することもあります。多摩動物公園では、令和4年にアメリカから3頭のチーターを導入し、今後は国内の繁殖計画に沿って繁殖を目指します。

3 動物病院の運営

飼育動物の治療だけでなく、死亡した動物の病理解剖、新しく加わる動物の検疫、獣舎の衛生管理と感染症対策などを担っています。また、人工繁殖への取組みも行っています。



Case

CTを活用した疾病の正確な診断と治療

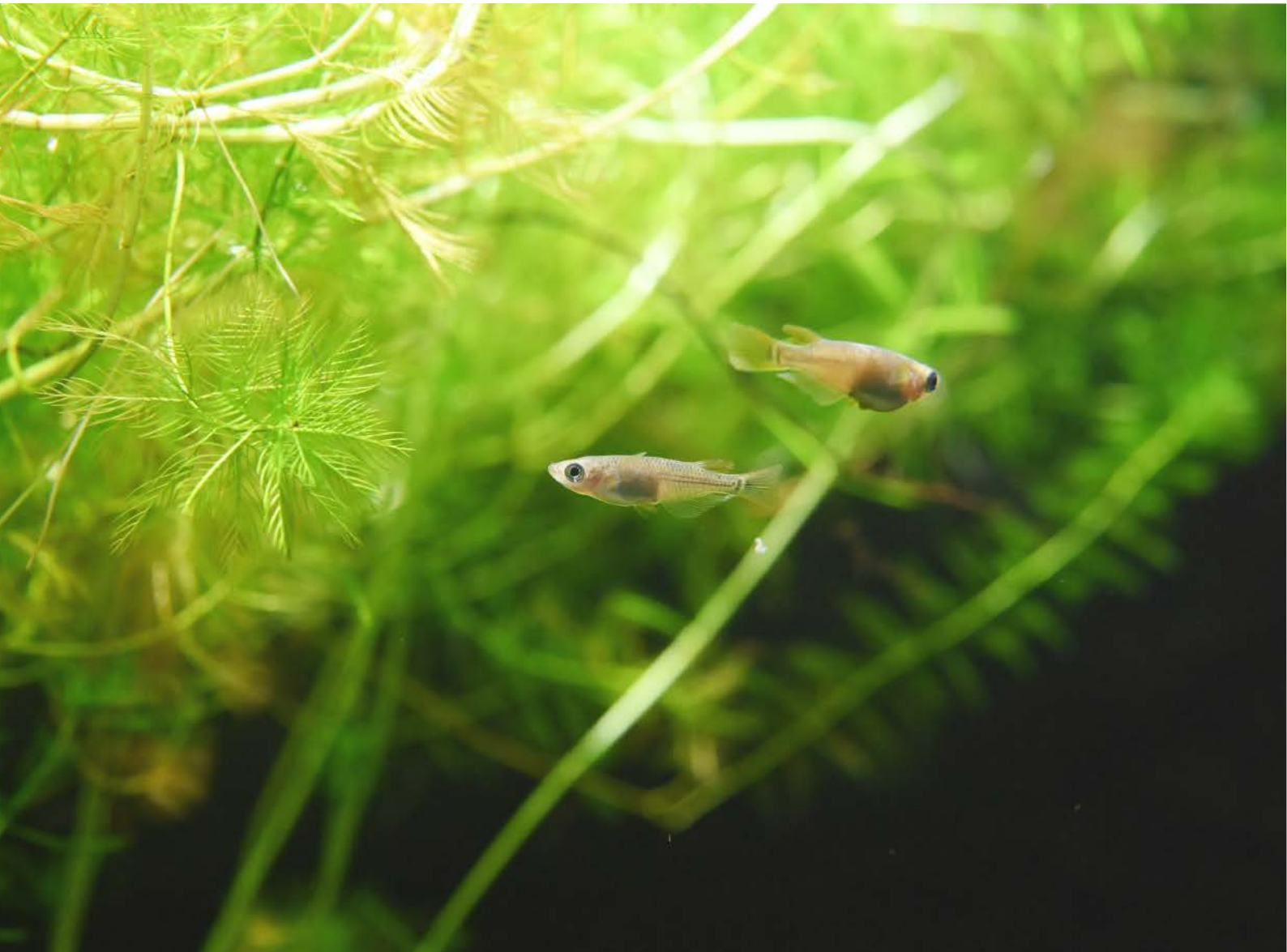
恩賜上野動物園の動物医療センターでは、平成30年に国内動物園で初めてCT(コンピュータ断層撮影)装置を導入し、画像診断の精度が飛躍的に向上しました。導入以来、大小さまざまな動物の診断と治療に役立てています。キリンの子の股関節異常を検査した際には、CT画像から股関節の状態を立体的に把握することができ、治療方針を決定する上で大いに役立ちました。



クロマグロ(葛西臨海水族園)

野生生物の保全

多くの野生生物が絶滅の危機にあり、近年その勢いが加速しています。都立動物園・水族園では「野生生物保全センター」を中心に、これまで培ってきた知識・技術を活かし、平成30年度に都が策定した「第2次ズーストック計画」の推進などを通じて、野生生物の保全に貢献しています。



東京めだか(ミナミメダカ)

1 野生生物保全センター

野生生物保全活動推進のため、平成18年に多摩動物公園の係として設置されました。令和5年には総務部の課として再編され、研究係、保全係の2係体制となりました。



Case

長年培った飼育技術を活かした トキの野生復帰(放鳥)事業への貢献

野生生物保全センターは、都立動物園・水族園が重点的に保全すべき種、取組むべき保全活動を定めるとともに、各園の活動を調整するセンター機能を果たしています。また、日本産の絶滅危惧種を中心に鳥類の飼育・繁殖も担当しています。トキの分散飼育では長年培ってきた飼育技術により雛が毎年成育し、佐渡での野生復帰(放鳥)に大きく貢献しています。

2 生息域外保全活動

動物園内における飼育繁殖など、生息地の外で行う保全活動を生息域外保全活動といい、保全の対象とする生物を定め、各園において繁殖と個体群の管理に努めています。



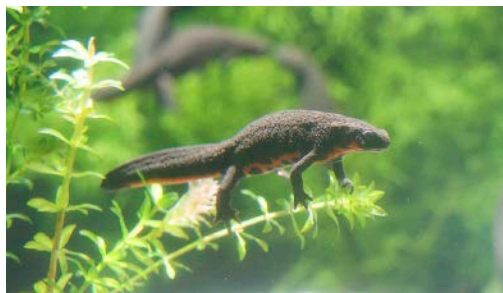
Case

日本産ライチョウの生息域外保全

恩賜上野動物園では国(環境省)の進めるライチョウ保護増殖事業に参画し、ライチョウの飼育・繁殖に取り組んでいます。令和3年には遺伝的多様性の維持を目的とした新たな取組みとして、人工授精による繁殖に成功しました。他にも国の保護増殖事業のもと、トキやツシマヤマメコ、アカガシラカラスバト、小笠原陸産貝類などの飼育・繁殖に各園が取り組んでいます。

3 生息域内保全活動

長年に渡り、飼育繁殖や調査研究を続け、東京産のアカハライモリや奄美大島のルリカケスなど、生息地での保全に貢献しています。



Case

アカハライモリの生息域内保全

かつては東京でも身近に見られたアカハライモリについて、生息地の環境整備や、調査研究を行っています。また、他団体と連携し、ルリカケスの営巣環境調査や野外で繁殖したニホンコウノトリの足環装着作業を行う他、アカガシラカラスバトのDNA解析を行い、野生個体の遺伝的多様性調査に寄与するなど、さまざまな形で生息域内保全活動に貢献しています。

4 調査研究・生物学技術の応用

DNA解析や精子凍結保存、性ホルモン測定などの技術を用いて調査研究をおこない、希少動物の繁殖や保全に役立てています。



Case

糞を用いた分析による 「ストレスのない妊娠診断」の実現

大学などの研究機関と連携して各種技術を習得・継承し、さまざまな分野で共同研究を行っています。糞や血液など動物種に応じたサンプルからホルモン測定を行い、アジアゾウの発情時期予測やネコ科動物の妊娠判定など、動物への負担の少ない分析技術を確立し、業務に役立てています。

5 国際的なネットワーク

都立動物園・水族園は、世界動物園水族館協会(WAZA)ほか、国際会議に積極的に職員を派遣し、培ったネットワークを活用して国際的な種の保存事業にも貢献しています。



Case

希少種スマトラトラを守る取組

恩賜上野動物園は、WAZAの国際血統管理計画に参画し、絶滅の危機に瀕しているスマトラトラの繁殖計画に取り組むほか、海外の動物園との連携協定などにより、国際的な保全活動を積極的に推進しています。また、多摩動物公園ではアメリカ動物園水族館協会の協力のもと、アメリカの動物園からチーターの寄贈を受け、国内での繁殖計画を進めています。

教育普及

教育普及活動は動物園・水族館の役割の大きな柱です。都立動物園・水族館では教育普及センターを設置し、大人から子どもまで、幅広い来園者が楽しみながら学べる多彩なプログラムを開発・実施しています。



キーパーストーク(多摩動物公園)

1 園内プログラム 各種イベントを通じた動物に関する情報の発信や動物相談室の運営を担っています。



Case

生きものの観察ポイントや生態、保全の取組みを飼育担当者が発信！

飼育の日(4月19日)など、さまざまな機会に飼育担当者が動物舎前で来園者向けのトークを行っています。観察ポイントや生態だけでなく、その生きものの保全の取組みを伝え、多くの方に生きものの魅力と現状を学んでいただいています。

2 体験プログラム・フィールドプログラム 園内での体験型プログラムや野外での観察会など、自然を知り、学ぶためのプログラムを開催しています。



Case

上野動物園と伊豆大島をつないで
2種のコウモリを比較観察！

上野動物園では園内で野生のアブラコウモリを観察すると同時にライブ中継で伊豆大島に生息するコキクガシラコウモリを観察するプログラムを開催しました。研究者や職員の解説とともに2種のコウモリを比較観察することで深く学んでいただくことができました。

3 学校教育との連携 「学校団体向けプログラム」の他、小学校教員向け研修の実施、職場訪問・体験の受入れ、貸し出し教材やICT教材の充実など、学校教育との連携を強化しています。



Case

教員ヒアリングに基づく新たなICT教材の開発

学校教育のデジタル化に合わせ、その現状を把握するための教員ヒアリングやその結果を生かしたICT教材の開発を行いました。葛西臨海水族園では国語の読み物「スイミー」に登場する生きものの動画や実寸大写真をパッケージ化した新しい教材を制作し、公開しています。

4 移動水族館 移動水族館車両により、普段、水族園に足を運べない方々に、海の生物に親しむ機会を提供しています。



Case

うみくる号といそくる号が「うみ、とどけます」

葛西臨海水族園では、移動水族館車両「うみくる号」と「いそくる号」により社会福祉施設や病院などを訪問し、障害や病気などのために来園することが難しい方々のために「展示解説プログラム」や「磯の生物とのふれあいプログラム」を実施しています。令和元年度には事業開始以降、累計参加者数が10万人に達しました。

5 ボランティアによる教育普及活動 ボランティア団体と協働し、「スポットガイド」など来園者に向けた教育普及活動を行っています。



Case

日本初の動物園ボランティア
「東京動物園ボランティアーズ」

都立動物園(上野・多摩・井の頭)で活動する東京動物園ボランティアーズ(昭和49年発足、610名)、および葛西臨海水族園で活動する東京シーライフボランティアーズ(平成19年発足、105名)と連携して、園内での教育普及活動を行っています。各団体に活動経費の支援を行うほか、ボランティア活動に必要な育成研修も行っています。

6 4園連携による幅広い教育普及活動の展開 教育普及センターのもと、4園が連携し、幅広い教育普及活動を展開しています。



Case

世界湿地の日にあわせた連携企画
「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう!」を開催

ラムサール条約を記念して定められた「世界湿地の日」にちなみ、4園では毎年、連携した企画を開催しています。令和5年度は、多摩ではコウノトリの保全の取組みについて広く伝える「コウノトリまつり」、葛西では東京湾の干潟をテーマにした講演会など、4園が湿地に関連したプログラムを実施しました。

利用者サービス



多くの方にホスピタリティあふれるサービスを提供できるよう、「ようこそ」の心を持った案内・接客に取り組んでいます。また、様々なメディアを活用した広報・広告や季節にあわせたイベントの展開により利用促進に努めています。

1 入園券の売改札、利用案内・園内サービス 入園券の販売や入園料の納入業務、園内の案内やサインの整備などを行っています。

Case お客様をお迎えするための様々な研修の実施

多様なお客様をおもてなしするため、各園の接客部門のスタッフは、サービス接客検定資格を取得するほか、語学研修や手話講習、アナウンス研修等を受講することにより、一歩進んだ接客スキルの習得に取り組んでいます。



2 利用者満足度向上への取り組み 様々な機会に来園者の要望を捉え、各園の管理運営に反映させています。

Case サービス向上委員会の取り組み

利用者アンケートだけでは把握できない、新たな来園者ニーズに応えるため、サービス向上委員会を設置し、さまざまな施策を検討しています。令和5年度はご来園中の方々がどのような点に興味をもって観覧しているか現地調査を行い、新たな企画や情報発信に関する取り組みを進めました。



3 広報・情報発信 ウェブサイトやSNS、プレスリリースなど様々な手段を活用し、各園のニュースやイベントなどの情報を発信して、都立動物園・水族園の魅力を広く伝えています。

Case 都立動物園・水族園の公式サイト「東京ズーネット」

ウェブサイト「東京ズーネット」は、4園の基本情報や動物の飼育展示や保全に関する情報、イベント情報をはじめ、協会が取り組む事業など、最新情報を発信するとともに、動画や音声などを活用して都立動物園・水族園の魅力を伝えるコンテンツの充実を図っています。



4 利用促進 季節や展示動物のトピックスにあわせたイベントの開催により、多様な利用者へ都立動物園・水族園の魅力を伝える取り組みを行っています。

Case 冬の周遊キャンペーンの実施

都立動物園・水族園を回るスタンプラリーやInstagramハッシュタグキャンペーンのほか、島しょ地域を含む東京に生息する生きものに関する保全の重要性や魅力を伝えるイベントを4園合同で開催しました。



5 広告 様々な外部媒体を活用し、都立動物園・水族園に関する積極的な広告活動を通じて、幅広い層への情報発信に努めています。

Case 野生生物保全に関する広告

集客を図るだけでなく、都立動物園・水族園の魅力や取り組みを広く伝える広告も実施しています。多くの人々が行き交う新宿駅西口のブライトサインへの広告掲出やSNS広告等を利用し、保全に関する取り組みを紹介しています。

安全・安心の確保



動物舎などの施設、設備の適切な維持管理に加えて、来園者の適切な整理・誘導、巡回警備を行います。また、自然災害やサイバー攻撃、テロなどの人為的災害等、様々なリスクを想定した危機管理対策を推進しています。

1 施設・設備の維持管理 動物舎や園路広場、電気、機械、空調、上下水道、樹木、花壇などの維持管理を行っています。

Case 適正な施設管理による快適な環境整備

日々の施設点検により、設備の不具合、枯枝の落下や倒木、園路の不陸などによる事故の未然防止や補修を行うとともに、アクセシビリティの向上、照明のLED化、植栽改善など施設のレベルアップにも取り組んでいます。



2 保安・環境美化 来園者の整理・誘導や巡回警備、清掃や動物舎の寝わらなどの廃棄物処理業務を担っています。

Case AIカメラを活用した混雑度の可視化

上野動物園では、AIカメラを活用した「上野動物園混雑マップ」によるエリアごとの混雑度情報の提供を行っています。DX技術も活用し、さまざまな取り組みを通じて、安心・安全な観覧環境の維持に努めています。



3 自然災害対策 気象災害や首都直下型地震などのリスクに備え、事業継続計画に基づき各種訓練を実施しています。

Case 緊急事態発生時を想定した事業継続訓練

災害発生時にも飼育生物を守り、最短で事業の復旧を図るため、あらゆる災害を想定した訓練を継続して行っています。



4 テロ対策 来園者の安全を守るため、テロ対策を推進しています。

Case 警察との連携によるテロ対策の実施

警視庁の指導のもと、爆発物や凶器によるテロを想定した訓練の実施やマニュアルの整備を行い、対策に取り組んでいます。



5 情報セキュリティ対策 不正アクセスやサイバー攻撃などに対する脅威に備え対策を講じています。

Case サイバーセキュリティ脆弱性診断の実施

日々進化するサイバー攻撃への対策として、ウェブサイトの脆弱性診断を実施しています。

固有事業

公益目的事業における固有事業として、協会の自主財源に基づく主体的な事業を展開しています。財団法人発足当初から継続している出版物の発行や会員組織の運営、資料収集や公開など、従来の教育普及事業を柱の一つとして情報発信に取り組んでいます。また、野生生物保全への貢献を目的とした基金制度を通じて、保全活動支援や普及啓発事業を推進するとともに、動物園サポーター制度による飼育環境の向上や動物園支援者の育成を進めています。



東京動物園友の会の運営

昭和27年に「動物愛好会」として発足し、以来「東京動物園友の会」へと続く現会員組織は、動物園における教育普及事業を推進するために観察会・見学会・講演会の開催や普及誌の発行を行っています。

Case

教育普及事業を担う国内有数の会員組織

動物や動物園・水族館に関心のある方を対象とした「東京動物園友の会」は、観察会や見学会などを開催して広く野生生物の魅力を伝えるとともに、普及誌の発行を通じて、動物園における教育普及事業の一端を担っています。大人の方からお子様まで、幅広い層を対象に普及活動を継続しており、令和6年3月末現在、一般会員は4,063名、ジュニア会員（中学生以下）212名に達しています。

出版物の発行

雑誌「どうぶつと動物園」「ZOO! どーぶつえんしんぶん」の発行を通じて動物や動物園・水族館に関する情報を発信するとともに、動物学分野の最新知見をお届けしています。

Case

「どうぶつと動物園」 「ZOO! どーぶつえんしんぶん」の発行

昭和24年創刊の「どうぶつと動物園」は、動物園発の普及誌です。都立動物園のみならず国内外の動物園・水族館の情報をお伝えするとともに、動物学の最新研究成果も掲載しています。平成20年、動物に関する関心を育てていただくために、お子様を対象とした雑誌「ZOO! どーぶつえんしんぶん」を創刊。両誌はそれぞれ東京動物園友の会一般会員の方とジュニア会員の方にお送りしています。



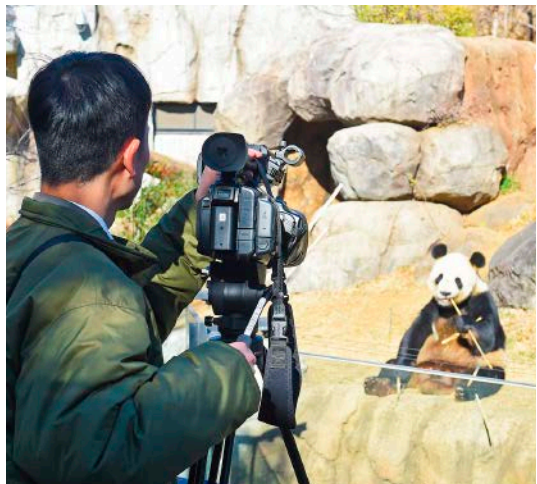
図書資料の収集・公開と映像記録資料の制作

動物及び動物園・水族館に関する内外の書籍や雑誌、部内資料を収集・公開するとともに、動物園事業の記録のために写真撮影と動画撮影を行い、教育普及事業や広報活動に活用しています。

Case

収集し記録し、保管して活用する

動物や動物園・水族館に関する国内外の図書や雑誌を収集保管するとともに、飼育動物の生態、催し物などを写真や動画で記録し、活用しています。図書資料は恩賜上野動物園資料室で一般の方への閲覧にも供しています。写真や動画は、協会発行の印刷物やウェブサイトを利用するだけでなく、広報発表時の提供資料、関連施設への情報提供資料、職員による研究発表資料、外部への貸出などに広く活用されています。



基金事業の運営

寄付金や収益事業からの繰入金を資金として、野生生物保全活動の支援や教育普及活動に取り組んでいます。動物園における飼育環境の改善や生息域外での保全活動のみならず、生息域内で活動する個人や団体も支援しています。

〈域内保全活動の支援〉

東京動物園協会野生生物保全基金

野生生物の保全活動を積極的かつ継続的に行う個人の方や団体への支援および保全への協会の主体的な取り組みを推進するために基金制度を運用しています。

Case

人と動物の共存への貢献を目指した保全活動の支援

東京動物園協会の設立趣旨の一つ「人と動物の共存への貢献」を推進するために、野生生物保全活動に取り組む個人や団体への支援および協会との協働を目的とした基金制度です。趣旨にご賛同いただいた方々による貴重な寄付金をもとに、国内外での保全活動を積極的に支援するとともに、報告講演会の開催などを通じて保全活動の価値を多くの人に伝えることも目的としています。



助成対象活動実績例

- ・オガサワラカワラヒワの飼育繁殖技術の習得及び域内調査活動（一般社団法人 Islands care）
- ・刺し網漁による海鳥混獲の実状把握～ウミガラスとエトビリカの保全を目指して～（一般社団法人 バードライフ・インターナショナル東京）
- ・奈良県生駒市におけるツバメの子育て研究（奈良女子大学附属中等教育学校）

〈都立動物園・水族園における飼育動物の支援〉

ジャイアントパンダ保護サポート基金

絶滅の危機にあるジャイアントパンダの保護を目的として、教育普及活動や飼育環境の向上、東京都を通じた国際的な保全活動への支援に取り組んでいます。

Case

絶滅が危惧される ジャイアントパンダを守るための取り組み

個人や企業からの寄付金、企業広告や園内イベントを通じた協賛金、及びオリジナルドネーション商品売上からの繰入などを積み立て、国際シンポジウムなどの教育普及事業を実施するとともに、恩賜上野動物園ジャイアントパンダ舎における飼育環境の向上や、東京都と中国が共同で進める国際的な繁殖研究プロジェクトへの支援に活用しています。



動物園サポーター事業

都立動物園・水族園への支援を通じて動物園事業への理解を促進し、広く参画意識を醸成するとともに、次世代の動物園支援者を育成する事業です。

Case

市民・団体の支援による飼育環境改善

都立動物園・水族園各園に動物園サポーター制度を設置して、個人の方や団体・法人からの資金的支援を受け入れ、飼育環境の改善などのために活用しています。その一例として、上野動物園ではポータブルエアコンを導入し、動物福祉に配慮した高齢動物（ブタ）の飼育展示を行っています（令和5年度実施）。



ポータブルエアコンを利用する高齢動物（ブタ）/子ども動物園すてっぷ

収益事業

都立動物園・水族園におけるギフトショップやレストラン・フードショップの運営、オリジナル商品やサービスの企画・開発などを行っています。収益事業によって得た収益は、公益目的事業の固有事業に繰入れられ、事業を通じて都民に還元されています。

ギフトショップの運営

都立動物園・水族園での楽しい思い出を持ち帰っていただくため、恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園におけるギフトショップの運営や、井の頭自然文化園におけるファーストフード店「こもれび」に併設されたギフトコーナーの運営を行っています。ギフトショップ・ギフトコーナーでは、「ここにしかない」様々な都立動物園・水族園グッズを販売しています。



オリジナルギフト商品の企画・開発

ギフトショップ・ギフトコーナーで販売するぬいぐるみや菓子、衣料などのギフト商品の企画・開発を行っています。飼育担当者の意見を取り入れリアリティを追求した商品のほか、期間・季節限定の展示やイベントと連動した商品の開発にも取り組んでいます。恩賜上野動物園では、売上の5%が「ジャイアントパンダ保護サポート基金」に寄付されるジャイアントパンダのドネーション商品も数多く販売しています。



オリジナルグッズ

各園オリジナルデザインの商品のほか、展示・イベントに合わせた限定商品など、様々なバリエーションをそろえています。



飼育係監修のフィギュア

ジャイアントパンダのシンシンと180日齢のシャオシャオ・レイレイ、1歳半に成長したシャオシャオ・レイレイを再現した、上野動物園オリジナルモデルのフィギュアです。（ジャイアントパンダ保護サポート基金のドネーション商品）

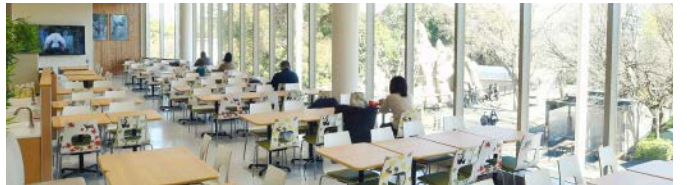


環境に配慮した商品

環境負荷の少ない素材を使用した商品の開発にも取り組んでいます。

レストラン・フードショップの運営

都立動物園・水族園ならではの美味しく楽しいメニューをお届けできるよう、恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園におけるレストラン・フードショップの運営を行っています。「食」の提供を通じて、都立動物園・水族園でのひとときをより豊かなものにしています。



フード商品の企画・開発

レストラン・フードショップで提供するメニューは、安心して安全なものを迅速に提供できるよう企画・開発を行っています。野生生物をモチーフとした美味しく楽しいメニューのほか、季節やイベント限定メニューなどの開発に取り組んでいます。恩賜上野動物園では、売上の5%が「ジャイアントパンダ保護サポート基金」に寄付されるドネーションメニューも販売しています。



パンダだんご

パンダが補助的栄養源として食べているパンダだんごのレシピをアレンジしました。動物園ならではの体験メニューです。



まぐろ丼

将来も魚を食べ続けることをお客様と一緒に考えたいという思いから生まれた「サステナブル・シーフード」を使ったメニューです。



シーズン・イベントメニュー

展示やイベント、シーズンに合わせた、ユニークで魅力的なメニューは四季折々の味わいも楽しめます。

その他のサービス

来園者サービスの一環として、園内でベビーカー貸出しやコインロッカーでの荷物預り、フォトサービスのほか、オリジナル商品の通信販売サービスを行っています。



ライオンバスの運行

多摩動物公園において、サファリ形式のライオンバスを運行しています。



ベビーカーの貸出し

ベビーカーの貸出しサービスを恩賜上野動物園及び多摩動物公園において行っています。



通信販売サービス

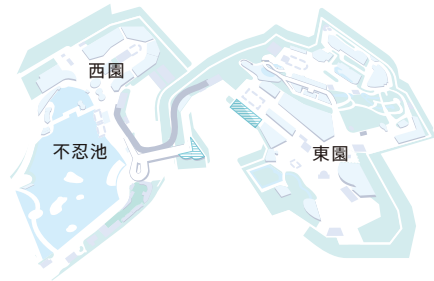
ウェブサイト「TOKYO ZOO SHOP」では、オリジナルグッズの通信販売サービスを行っています。

各園の概要

恩賜上野動物園

Ueno Zoological Gardens

長い年月をかけて培ってきた技術を活かして、さまざまな動物の飼育・展示を行う日本を代表する都市型の総合動物園。多くの動物の繁殖に成功しており、動物の多様な魅力とともに、野生生物保全の重要性を国内外に発信しています。



開園年月日	明治15年(1882年)3月20日	所在地	東京都台東区	面積	14.4ha	来園者数	3,264,275人(令和5年度)
飼育動物	293種2,775点(令和6年3月31日現在) 内訳:哺乳類91種・鳥類94種・爬虫類65種・両生類30種・魚類7種・無脊椎動物6種						



ジャイアントパンダ(シャオシャオ・レイレイ)



スマトラトラ(アサ:令和5年4月生まれ)



アイアイ

東園

明治15年に開園した最初の動物園のエリアです。巨樹が鬱蒼とした上野公園の丘陵地に位置しており、江戸時代に再建された国重要文化財の旧寛永寺五重塔や藤堂高虎が建立し、明治11年に再建された閑々亭など上野の山の歴史を感じさせる史跡が点在しています。「日本の動物」では、五重塔をバックにエゾシカやニホンカモシカ、日本の野鳥を展示するほか、緑と土の放飼場にいるゾウを様々な角度から観察できる「ゾウのすむ森」、ゴリラやトラの生息地の景観をイメージした「ゴリラ・トラの住む森」、熱帯から寒帯にかけて広く分布するクマたちの生息地を再現した「クマたちの丘」、ホッキョクグマが水中で見せるダイナミックな行動を間近に観察することができる「ホッキョクグマとアザラシの海」などの施設があります。令和5年4月には当園では26年ぶりにスマトラトラの仔が誕生し、続けて12月にも繁殖がありました。

西園

ハスが茂り、野鳥も飛来する風光明媚な不忍池の北側の区域で、開放感溢れる景観を楽しめるエリアです。戦後まもなく日本で初めて誕生した「子ども動物園」をリニューアルした「子ども動物園すてっぷ」は、子どもたちが身近な動物と親しむことによって、動物をいたわる気持ち、自然を愛する気持ちを育む「学び」の機能が充実しています。令和2年にオープンした「パンダのもり」では、ジャイアントパンダだけではなく、生息地の近いレッサーパンダ、キジ類も展示しています。令和3年6月23日には、ジャイアントパンダが2頭生まれ、大きな話題となりました。そのほかに、キリン・サイ・カバ・ハシビロコウなどのアフリカ産の動物、50種類以上の小型の動物を展示する「小獣館」、ジャングルのような雰囲気の特徴の「両生爬虫類館」などがあり、マダガスカル固有の動物を展示する「アイアイのすむ森」では、令和5年1月、5月と続けておよそ5年ぶりにアイアイの繁殖がありました。



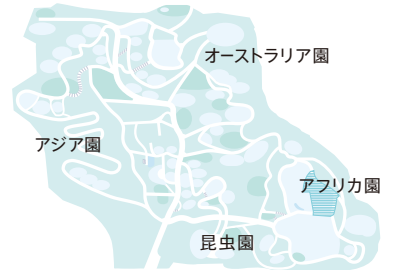
NEWS

ジャイアントパンダ「シャンシャン」が、令和5年2月に中国へ返還されました。平成29年6月に誕生してから5年8か月、たくさんの方に愛され成長し、無事返還することができました。最終観覧日には、抽選制での観覧にもかかわらず、2万人以上の来園者が訪れ別れを惜しまました。

多摩動物公園

Tama Zoological Park

無柵放養式を日本で初めて全面的に取り入れた動物園です。豊かな自然と広い敷地を活かし、数多くの動物の繁殖を毎年行っており、都立動物園における、野生生物保全の拠点として機能しています。



開園年月日	昭和33年(1958年)5月5日	所在地	東京都日野市	面積	52.4ha	来園者数	802,224人(令和5年度)
飼育動物	263種17,516点(令和6年3月31日現在) 内訳:哺乳類55種・鳥類80種・爬虫類5種・両生類7種・魚類5種・無脊椎動物111種						



アジアゾウ



ライオンとライオンバス



ハキリアリ

アフリカ園

アフリカのサバンナや熱帯雨林に生息する動物を中心に展示しています。アフリカゾウの放飼場では鼻を使って水浴びする姿や吊したタイヤを鼻で揺るダイナミックな動きをご覧になります。約20頭のチンパンジーがくらす「チンパンジーの森」では、野生と同じようなチンパンジーの社会的行動を観察することができます。チーターの放飼場では走る姿だけでなく、そのスマートな体をガラス越しに間近でご覧いただけます。リニューアルしたライオン園ではライオンバスに乗って迫力あるライオンの群れ展示をご覧ください。現在、サバンナエリアは再整備中です。

昆虫園

昆虫生態園には林や草原など昆虫の生息環境を再現した大温室があり、一年中チョウが飛び交います。昆虫園本館では日本で唯一の展示となるグローワームやハキリアリなどをご覧ください。また、多摩丘陵の自然の地形を活かしホタルの生息できる環境づくりにも取り組んでいます。



NEWS

絶滅危惧種の肉食性有袋類タスマニアデビルは、令和5年10月から展示が一時途絶えていましたが、令和6年2月にオーストラリア連邦タスマニア州政府のタスマニアデビル保護飼育施設Cressy Wildlife Centreから2頭が来園しました。それを記念して、スペシャルトークやパネル展示など、園内で関連イベントを行いました。

アジア園

アジアの動物を紹介するエリアです。アジアゾウの本来の生息に即した展示施設「アジアゾウのすむ谷」、オランウータンが高さ約15メートルのワイヤーロープを渡っていく様子を観察することができる空中展示「スカイウォーク」、ユキヒョウやゴールデンターキンなどを展示する「アジアの山岳」、マレーバクやインドサイのほかウォークスルーのバードケージで鳥類を間近に観察できる「アジアの沼地」、群れでくらすモウコノウマやタイリクオオカミを展示する「アジアの平原」などの施設があります。

オーストラリア園

コアラ、アカカンガルー・ワラビー、タスマニアデビルなど、オーストラリアを代表する有袋類を展示しています。



葛西臨海水族園

Tokyo Sea Life Park

東京の水辺から北極・南極を含む世界各地の海で収集された多様な生物をその環境とともに展示する施設です。「海と人との交流の場」をテーマとして、「生態」「環境」「食育」を学ぶことのできる場です。



開園年月日	平成元年(1989年)10月10日	所在地	東京都江戸川区	面積	8.6ha	来園者数	1,260,218人(令和5年度)
飼育動物	933種41,555点(令和6年3月31日現在) 内訳:鳥類6種・爬虫類3種・両生類8種・魚類449種・無脊椎動物467種						



クロマグロ



ウィーディシードラゴン



ウミガラス

本館

本館は、令和4年に新規オープンした「サンゴ礁の海」に始まり、「大洋の航海者」、「世界の海」、「渚の生物」、「ペンギンの生態※」、「海藻の林」、「東京の海」、「発光生物」、「海鳥の生態」で構成されています。水族園の中で最も注目される「大洋の航海者」エリアでは、水量2,200tのドーナツ型大水槽でマイワシの群れや外洋性のアカシュモクザメなどのサメ類やウシバナトビエイなどがダイナミックに泳ぐようすを見ることができるほか、クロマグロの迫力ある群泳を観察できるアクアシアターがあります。また、「世界の海」では、太平洋、大西洋、インド洋や北極海・南極海など、世界中のさまざまな海から収集した興味深い生物をご覧になれます。「海藻の林」では、世界最大の海藻

ジャイアントケルプとカリフォルニアの海にくらす生き物を波の動きとともにゆったりと観察いただけます。「東京の海」では、小笠原諸島から伊豆七島、そして東京湾の外湾部から内湾部の干潟まで、さまざまな環境を展示しています。そのほかにも、「海鳥の生態」では海を生活の場とする鳥の展示として北半球にすむ エトビリカやウミガラスが水中を飛ぶように泳ぐ姿を見ることができます。

※令和6年1月11日から10月末まで工事により展示休止(予定)



NEWS

1989年10月10日の開園以来、多くの来園者に親しまれてきた当園では、2023年11月4日に入園者の累計数が6,000万人に到達しました。当日は空の広場のドーム内で記念式典を開催し、達成を記念してくす玉割りを行い、お祝いしました。



井の頭自然文化園

Inokashira Park Zoo

日本産動物を中心に飼育展示しており、身近な動物とのふれあいを通じた体験機能を強化しています。また、日本産動物の生息地と連携した保全活動や武蔵野の自然や彫刻館などの文化施設を活用した教育普及活動にも力を入れています。



開園年月日	昭和17年(1942年)5月17日	所在地	東京都武蔵野市	面積	11.6ha	来園者数	702,922人(令和5年度)
飼育動物	161種3,344点(令和6年3月31日現在) 内訳:哺乳類31種・鳥類57種・爬虫類8種・両生類10種・魚類38種・無脊椎動物17種						



ニホンカモシカ



ミヤコタナゴ



オシドリ

動物園(本園)

展示の主役は日本に生息する動物たちです。キツネやアナグマなどの里山の動物、山間に住むニホンカモシカやヤマドリなどを展示しています。また、「リスの小径」は動物舎の中を通り抜けながら愛らしいニホンリスを至近距離で見ることができます。昆虫や小動物をじっくり観察できる「いきもの広場」やモルモットのふれあいコーナーでは、生き物を間近に感じることができます。そのほかにも、彫刻園では、長崎県の平和祈念像で有名な彫刻家北村西望の多くの彫刻作品を展示しているほか、詩人野口雨情の書斎を移築した童心居、様々なテーマの特設展を行う資料館などが併設されており、動物園と文化施設が調和した施設となっています。

水生物園(分園)

井の頭池の畔に建つ「水生物館」では、井の頭池をテーマにした展示の他、かつて身近に見られた魚類や両生類、水生昆虫、水生植物などを展示しています。国内の動物園・水族館では唯一、水中で生活するクモであるミズグモを常設展示しています。また特設展示場では身近な環境保全をテーマとした企画展示を行っています。ラクウショウの大きな木が並ぶ園内では、オシドリやカリガネ、コールドックなどのガンカモ類の他、クロツラヘラサギやニホンコウノトリ、ミゾゴイなど水辺に棲む鳥を展示しています。井の頭池の生き物が観察できる「水辺のいきもの広場」では、体験型の教育普及活動を行っています。



NEWS

日本産動物の保全の取組みとして、令和5年度はニホンカモシカやミゾゴイ、カイツブリ、カタマイマイなど都内に生息する希少な野生生物の繁殖を数多く手掛けました。また2年連続で成功したアムールヤマネコの繁殖の成果は、環境省と国内の動物園が推進しているツシマヤマネコの保護増殖事業にも役立てられています。

TOPICS

特に注目していただきたいテーマをピックアップし、ご紹介します。

TOPIC 001

地球環境保全行動戦略の推進

令和4年度に策定した「地球環境保全行動戦略」に基づき、生物多様性保全への貢献、気候危機への対応や循環型社会への寄与、組織基盤の強化等の具体的な行動計画を推進しました。環境に配慮した素材を使用した割り箸・カトラリー、容器の拡充や、ジャイアントパンダの食べ残したタケを利用した園路舗装のほか、令和5年12月には国内最大級の環境総合展「エコプロ」に初めて出展し、かけがえのない地球環境を未来の世代に継承するための当協会の取組みを広く社会にアピールしました。



環境に配慮した素材を使用した割り箸、カトラリー、容器



ジャイアントパンダの食べ残したタケを利用した園内舗装(恩賜上野動物園)



国内最大級の環境総合展「エコプロ」に初出展

TOPIC 002

野生生物保全に寄与する研究活動の推進

多摩動物公園の係として平成18年に設置された野生生物保全センターは、令和5年に総務部の課に組織改編され、研究係、保全係の2係体制となりました。研究係は、都立動物園・水族園の研究活動を推進し、得られた科学的知見を公表することで野生生物保全に貢献することを目指しています。従来のDNA検査による性判別、親子判定、ホルモン分析による発情、妊娠の推定に加え、令和5年度は飼料の栄養分析や、給餌内容改善等の栄養学的な取組みを開始しました。



チンパンジーの採餌研究



顕微鏡による生体試料検査



アカハライモリの生息地保全活動・状況調査

TOPIC 003

高病原性鳥インフルエンザ対策

令和5年2月、高病原性鳥インフルエンザが多摩動物公園で発生しました。この時の初動対応から再開園までの対応実例を基に、既存の東京動物園協会の鳥インフルエンザ対応マニュアルをより実効性のある内容に改定し、飼育施設については、「都立動物園における鳥インフルエンザ対策(ハード面)」に関する基本方針」を策定し、発生リスクを低減するための方針をまとめました。このように、発生リスクを抑え、発生した場合でも迅速かつ適切な対応をとれるよう、ソフト面及びハード面からの見直しを行いました。



一部鳥類の室内移動



寒冷紗の設置



消毒槽の設置

TOPIC 004

オンライン教育普及プログラムの充実

新型コロナウイルス感染症拡大への対応として積極的に取り組んできた教育普及活動の経験を活かし、通常開園後もオンラインのメリットを活用した多様なプログラムに取り組んでいます。ZoomやYouTubeなどを利用し、遠隔地の方や来園の困難な方も含め、より多くの方々に情報を発信して学習機会を提供しています。上野動物園では機材を備えた専用のオンライン発信基地「UENO ZOO STUDIO」を活用し、学校教育と連携した授業を開始しました。



「世界ゾウの日」オンライン講演会



ジャイアントパンダ来園50周年記念
オンライン講演会



UENO ZOO STUDIOでの授業風景

概要

法人名	公益財団法人東京動物園協会	代表者	理事長　杉崎 智恵子
所在地	東京都台東区池之端 2-9-7 池之端日殖ビル7階	役員等	理事12名、監事3名、評議員16名
設立	昭和22年12月24日（任意団体として発足） 昭和23年11月　1日（財団法人設立許可） 平成22年　4月　1日（公益財団法人へ移行）	職員数	489名 （うち84名は東京都派遣職員）
事業目的	動物園及び水族園の事業の発展振興を図り、 動物とその生息環境について知識を広め、 人と動物の共存に貢献すること	基本財産	6億円
		総事業費	107億円（令和6年度予算額）

沿革

東京動物園協会は、戦後まもない昭和23年に「動物に親しみ、動物愛護の心を養うことはヒューマニティーへの最短距離の一つと信じ」「民衆的な動物園事業の健全な発展を熱望」（設立趣意書より）して設立されて以来、動物園事業の発展振興と動物愛護思想の普及を目的として、各種事業を意欲的に推進してきました。

昭和27年1月には高松宮宣仁親王に、平成元年8月には常陸宮正仁親王に総裁へのご就任を戴き、一步一步着実に事業を展開しています。

昭和61年には東京都の出資団体となって都立動物園の管理業務の一部を受託し、さらに平成18年4月からは、都立動物園・水族園4園において、「指定管理者」として飼育業務を含む事業運営を全面的に担っています。そして、平成22年4月には当協会の実施する事業の高い公益性が認められ、「公益財団法人」として認定され、現在にいたります。

令和5年11月、東京動物園協会は協会創立75周年を迎えました。現在は、東京都の政策連携団体として設立当初の思いを引き継ぎながら、動物園及び水族園の事業の発展振興を図るとともに、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献していきます。

小史

昭和	平成	
22年12月　任意団体として発足	元年　4月　水族園事業所開設	20年　5月　多摩動物公園開園50周年 11月　創立60周年記念式典
23年11月　財団法人東京動物園協会設立 大村 清一　初代会長に就任	8月　常陸宮正仁親王　総裁に推戴 10月　葛西臨海水族園開園	22年　4月　公益財団法人に移行
24年　7月「どーぶつえんしんぶん」第1号発行 （「どうぶつと動物園」の前身）	8年　6月　第4回世界水族館会議に協力	23年　8月　藤井 芳弘　理事長に就任
26年12月　高崎 達之助　会長に就任	9年　4月　都の協議団体となる 12月　田坂 益夫　会長に就任	25年　6月　総務部（本社）を東京都台東区池之端 2丁目9番7号 池之端日殖ビル7階に移転
27年　1月　高松宮宣仁親王　総裁に推戴 10月　動物愛好会発足	10年11月　創立50周年記念式典	28年　4月　指定管理者として上野・多摩・葛西・井の頭 の4園の新たな指定管理期間の開始 8月　塚本 直之　理事長に就任
33年　5月　多摩事業所開設	11年12月　貫洞 哲夫　会長に就任	29年　8月　中野 透　理事長に就任
37年　7月　古賀 忠道　理事長に就任	12年　3月　「どうぶつと動物園」通算600号となる 12月　「インセクトリウム」終刊（通算443号）	30年　3月　「監理団体経営改革プラン」策定 4月　鈴木 勝　理事長に就任 11月　創立70周年記念式典
39年　1月「インセクトリウム」第1号発行 5月　ライオンバス開始 7月　吉田 茂　会長に就任	13年　1月　動物愛好会と多摩動物公園昆虫愛好会 を統合し、東京動物園友の会を発足 3月　ホームページによる普及活動開始 4月　都の監理団体となる	31年　4月　教育普及センター設置 都の政策連携団体となる
40年　1月　多摩動物公園昆虫愛好会発足		
42年12月　岡田 要　会長に就任	14年　4月　井の頭自然文化園の管理業務の一部 及び上野・多摩、井の頭の施設維持 補修業務を管理委託される	
49年10月　東京ズーボランティアズ発足に協力 飯沼 一省　会長に就任		
52年12月「世界の動物／分類と飼育」シリーズ 全11冊刊行開始（平成3年11月完結）	16年　4月　会計年度を4月～翌3月に変更	
55年　1月　事務局機構の整備を行う	17年　4月　「どうぶつと動物園」の誌面を刷新し、 季刊とする（季刊第1号=通算658号）	3年　4月　今村 保雄　理事長に就任 6月　再開園（入園制限あり）
57年　3月　恩賜上野動物園開園100周年記念事業に協力	12月　東京都議会において都立動物園・水族園 の指定管理者として承認される	4年　1月　新型コロナウイルスの影響による 臨時休園③（～3月） 3月　再開園（入園制限あり） 5月　全園通常開園に戻る
58年　6月　太田 和男　会長に就任	18年　4月　指定管理者として上野・多摩・葛西・井の頭 の4園の飼育業務を含めた全面的な事業 運営を開始する 寄附行為変更により理事長が代表権者となる 浅倉 義信　理事長に就任 組織を改正し4部13課体制とする	5年　4月　野生生物保全センターを係から課に昇格 6年　4月　杉崎 智恵子　理事長に就任
61年10月　都の出資団体となり、上野・多摩両園 管理業務の一部を管理委託される		
62年11月　国際バンダシンポジウムに協力		
63年　2月　花村 仁八郎　会長に就任		

役員等



総裁　常陸宮正仁親王



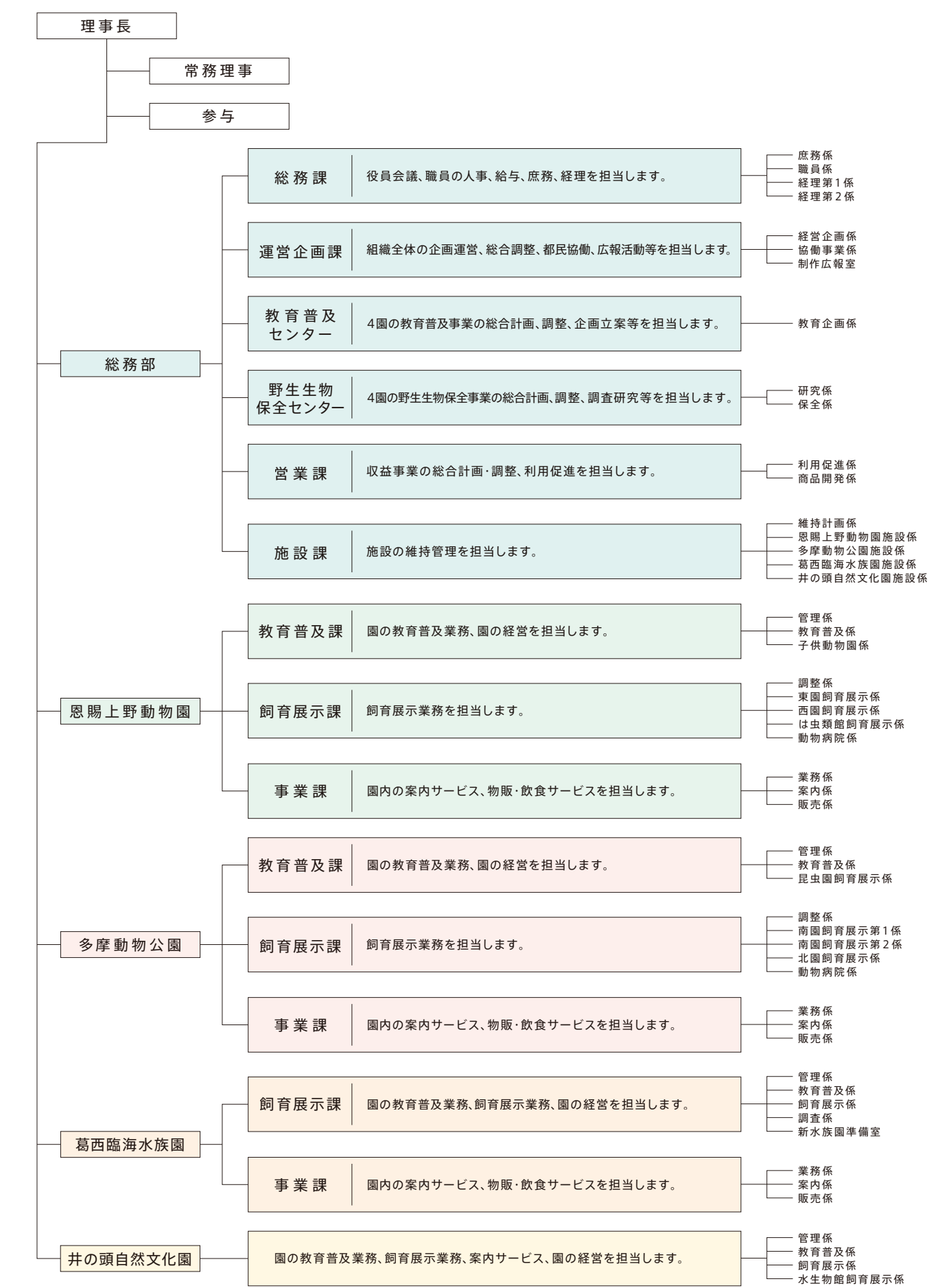
理事長　杉崎 智恵子

総裁	常陸宮正仁親王		理事長	杉崎 智恵子（前東京都収用委員会事務局長）
	評議員	林 良博（国立科学博物館顧問）	常務理事	寛 直（元東京都環境局環境改善部長）
		内山 晟（動物写真家）	松山 俊樹（前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長）	
		ヒサ クニヒコ（漫画家、絵本作家）	菅谷 博（茨城県立自然博物館名誉館長）	
		遠藤 秀紀（東京大学総合研究博物館教授）	見城 美枝子（青森大学名誉教授、エッセイスト）	
		今泉 忠明（日本ネコ科動物研究所長）	長谷川 寿一（東京大学名誉教授）	
		林 公義（皇居内生物学研究所）	西 源二郎（東海大学海洋学部客員教授）	
		三浦 慎悟（早稲田大学人間科学学術院名誉教授）	加藤 隼（京王電鉄株式会社特別顧問）	
		打越 綾子（成城大学法学部教授）	鷺谷 いづみ（東京大学名誉教授）	
		竹内 伸子（絵手紙作家）	村井 良子（有限会社ブランニング・ラボ代表取締役）	
		村松 真貴子（公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団理事長）	尾崎 清明（公益財団法人山階鳥類研究所副所長）	
		平井 純子（駿河台大学スポーツ科学部教授）	佐々木 珠（東京都建設局公園緑地部長）	
		曾根 はじめ（東京都議会環境・建設委員長）	監事	須賀 光一（上野のれん会会長）
上林山 隆（東京都建設局次長）	半田 昌之（公益財団法人日本博物館協会専務理事）			
根来 千秋（東京都東部公園緑地事務所長）	荒井 芳則（東京都建設局総務部長）			
細川 卓巳（東京都西部公園緑地事務所長）				
矢岡 俊樹（公益財団法人東京都公園協会理事長）				
(令和6年5月末現在)				

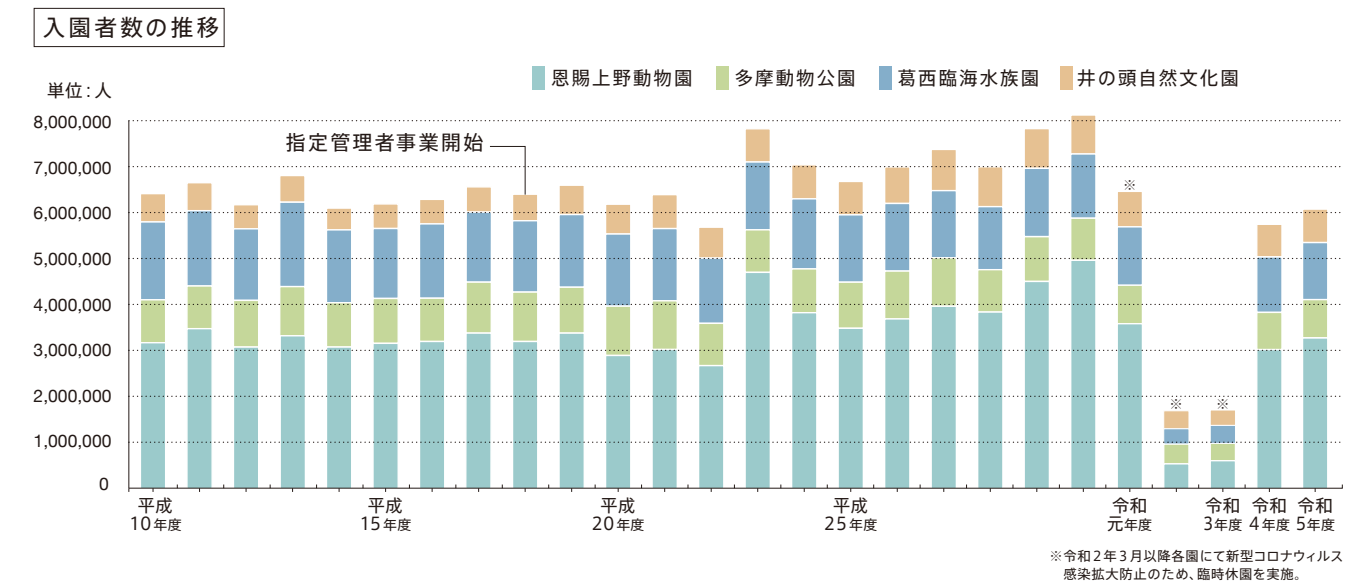
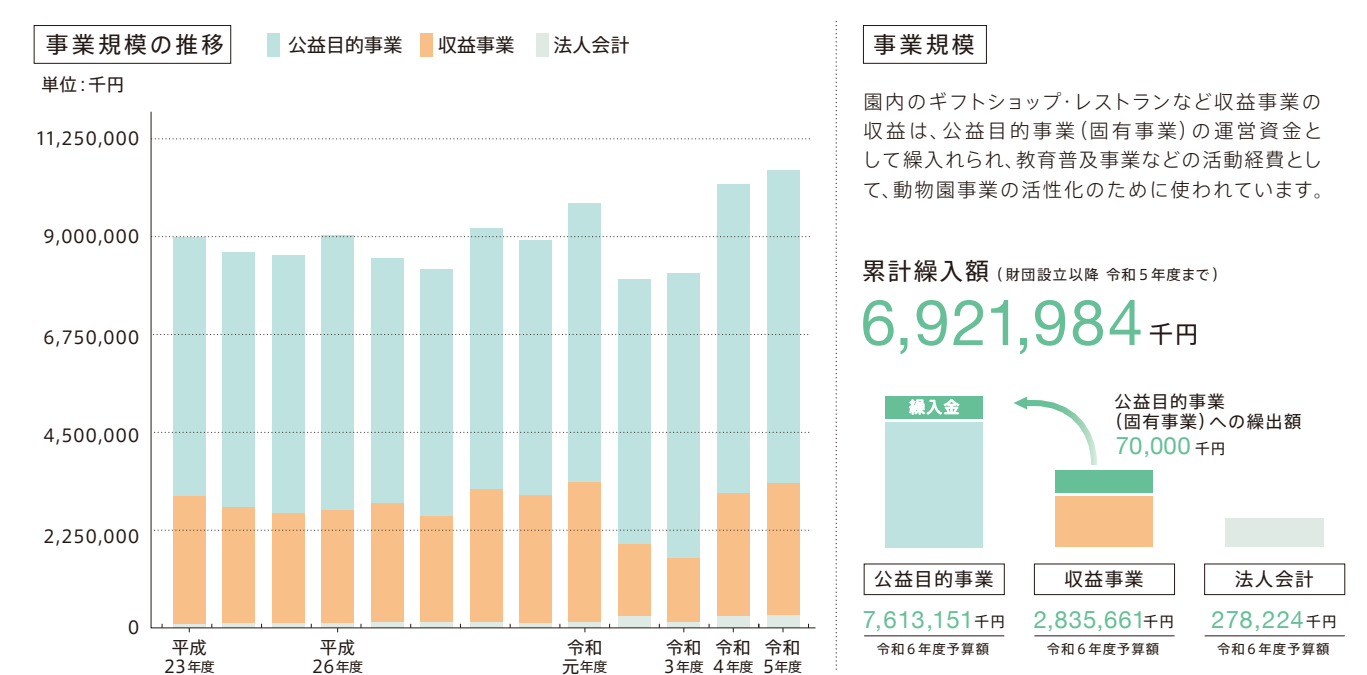
機構

役 割	名 称	概 要
議決・監督機関	評議員会	理事及び監事の選解任、定款の変更など、協会運営に関する重要な事項を決定するとともに、決算の承認など、理事の業務執行を監督する。
	理事会	事業計画、予算の議決など、本協会の業務執行を決定する。
執行機関	理事会	本協会を代表し、その業務を執行する。
	常務理事	理事長を補佐し、本協会の業務を分担執行する。
	参与	理事長が委嘱した特定事項を処理する。
	事務局	事務に従事する。
諮問機関	顧問	理事長の特別な諮問に応える。
監査機関	監事	業務執行及び財産の状況を監査する。

組織概要



事業総括



About Us

Tokyo Zoological Park Society (Tokyo Dobutsuen Kyokai) is a non-profit organization that manages and operates the zoos and aquarium owned by Tokyo Metropolitan Government: Ueno Zoological Gardens, Tama Zoological Park, Tokyo Sea Life Park and Inokashira Park Zoo.

Our mission: 1. To develop activities and services at the zoos and aquarium
2. To contribute to the coexistence of humans and wild animals by spreading knowledge about animals and their habitats

In 1947, shortly after WWII, the Tokyo Zoological Park Society was founded as a voluntary association, "believing that fostering the idea of animal protection is the best and fastest way to achieve humanity," and "aspiring to the healthy development of democratic zoo management"(from the Prospectus). The Society was chartered as a non-profit organization in 1948, and has since been fulfilling its missions by actively engaging in activities at the zoos and aquarium, such as creating publications, membership management, and other sales services.

In April 2006, the Tokyo Metropolitan Government appointed the Tokyo Zoological Park Society as a managing agent defined in the Local Autonomy Law, and has entrusted almost all the administration and management, including husbandry and exhibition, of the Tokyo zoos and aquarium to the Society. In April 2010, the Society took a new step forward by being authorized as a public interest incorporated foundation.

We celebrated our 75th anniversary in November 2023. Keeping in mind our founders' vision, we will continually achieve our mission.